



成長への環 つながりの和 地域との輪

稲付中学校だより～自律と自立～

NO. 3

令和6年6月1日

校長 名取 秀康

<稲付中学校 運動会特集>

眩しいくらいの太陽の光が降り注ぐ中、令和6年5月23日（土）、北区立稲付中学校運動会を開催いたしました。当日は、お忙しい中にもかかわらずたくさんの保護者・ご来賓の皆様方が応援に駆けつけてくださいました。皆様方の温かな声援がどれだけ生徒たちの心を揺さぶり、励みになったかわかりません。皆様と共に生徒たちの頑張りを共感することができましたこと、教職員一同心から感謝申し上げます。

さて、今年の運動会プログラムの校長挨拶文には次のような文章を載せました。「自分たちで目標（スローガン）を決め、その目標（スローガン）を達成するための道筋（計画）を自分たちで考え、自分たちの意志で取り組んでいく。そんな運動会を目指して実行委員を中心に取り組んできました」この文章のとおり教職員も生徒も昨年度までの経験と知恵を生かし、さらに生徒主体の運動会（自分たちで創りあげる運動会）に近づけたと確信しております。

今回の学校だよりでは、各学年の取り組みについて担当教員から紹介いたします。本番での成果の裏にある生徒・教職員の頑張りをお察しいただけると幸いです。

<明楽追求～楽しさのゴールテープを超えよう～>

第3学年主任 藤田 妙子

今年度のスローガン決めでは、3年生の実行委員が全校にスローガンを募集する前に、「運動会全体のテーマを決めてから募集しよう」ということになりました。その中で、「運動会の楽しさは人によって違うこと、勝つこと、自分の限界に挑戦すること、嫌な思いをする人がいないこと、全力で取り組むこと」などの意見が出ました。そして、「それぞれの楽しむを追求したら、それを超えた先に何かが見えるのでは・・・」という思いから、今回のスローガン「明楽追求～楽しさのゴールテープを超えよう～」になりました。

3年生の空手では、2年生の終わり頃から空手道連盟の中先生と高橋先生にご指導いただきました。初めは戸惑っていた生徒達も、本番が近づくにつれ臨む姿勢が変わり、演技に迫力が増していきました。運動会当日は、緊張感の中にもそれぞれの思いを感じ、楽しさや緊張感のゴールテープを超えた何かを得られたのではないのでしょうか。

<第2学年のソーラン節>

2学年運動会実行委員 水戸 大介

2年生が運動会で披露したソーラン節は、「極め組 東京」のソーラン節をお手本としたものです。小学生でも経験した生徒もいましたが、細かい動作など今までとは違う動きに戸惑い、筋肉痛になった人もいました。お手本動画をスロー再生で動きを確認したり、自宅で練習をしたりする人もいました。また、隊形は、運動会実行委員が「どうしたらカッコよく見えるか」を話し合いながら決めました。

稲付中の伝統の法被を嬉しそうに誇らしくに身にまとい、生徒たちが自分たちのために、見てくれる人のために一生懸命踊った姿は、みなさんにどう映ったでしょうか。見てくれた全ての人に感動や生徒の頑張りが伝わったと思います。

演技後の盛大な拍手ありがとうございました。

<第1学年初めての運動会への取り組み>

学年主任 高山 修司

1学年は、運動会スローガン『明楽追求～楽しさのゴールテープを超えよう～』の中にある、「楽しさとは何か」を考えながら練習に臨みました。運動会実行委員が中心となり、練習内容を考えたり、学年練習の進行をしたりしましたが、実行委員を支える人、雰囲気明るくしてくれる人、声かけをしてくれる人が多くいて、学年生徒一人一人のもっている力を発揮しながら運動会に向かう雰囲気を作ることができました。また、今回は5組の生徒も一緒に学年競技に参加しました。作戦会議では、昼休みや学活の時間を使って走順や競技のコツを一緒に話し合いました。皆の考えがまとまらずに時間がかかってしまうこともありました。少しずつの「譲り合い」や「思いやり」を意識することで解決できました。お互いのよさを生かして協力することの「楽しさ」を味わえた運動会にすることができました。

<その他の活動>

◎報道委員会による「いなほ」より



報道委員会が各クラスの体育祭への思い（気合い）をまとめ掲示してくれました。

- 担任からの一言
- 体育祭実行員からの意気込み
- 競技・演技の見所

◎プログラム担当より



プログラム担当より、プログラムの挿絵を募集しました。応募してくれた生徒の作品すべてを掲示しました。どれも個性的で素敵な作品です。

※どちらも2階体育館側の掲示板に飾ってあります。ご来校の際にはぜひ、ご覧になってください。その他、練習中の様子の写真も掲示しております。